

映画『モンサントの不自然な食べもの』上映会&講演会開催のお知らせ
2014年1月17日(金)上映 15:10～、講演 17:10～ (6319 教室) 国際学部映画上映委員会

映画『モンサントの不自然な食べもの』

2008年、仏・加・独、マリー＝モニク・ロバン監督

私たちに身近な食品、豆腐や納豆、ポテトチップなどのラベルにかならずある「遺伝子組み換えでない」という表記。当たり前のように食卓にのぼる遺伝子組み換え作物、「不自然な食べもの」。果たしてそれはどこから来るのだろうか？

HP: <http://www.uplink.co.jp/monsanto/about.php>

予告編: http://www.youtube.com/watch?v=PO7RmRVZs6A&feature=player_embedded



2014年1月17日(金)

【時間】映画上映 15時10分～17時00分 (6319 教室)

講演会 17時10分～18時40分 (白井 和宏 氏)

(株)生活クラブ・スピリッツ代表取締役専務

【場所】文教大学 湘南キャンパス 6319教室 (6号館3階)

住所: 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

URL: <http://www.bunkyo.ac.jp/access/shonan.htm> (バスをご利用ください。)

【料金】 入場無料 (申し込みの必要はありません) 一般の方もぜひお越しください

【問い合わせ先】 文教大学国際学部事務室(0467 - 54 - 3717)

b1w41057@shonan.bunkyo.ac.jp (小林)

主催: 国際学部対外活動委員会 (国際教育連帯小委員会) 映画上映委員会

ストーリー

フランスのジャーナリスト、マリー＝モニク・ロバンは、取材で世界各国を飛び回る日々を送っていた。行く先々で耳にする巨大多国籍企業「モンサント社」の黒い噂。その真偽を確かめるために、インターネットを使って情報を集め、アメリカ、インド、パラグアイ、イギリスなど現地に赴き、3年間にわたり証言を集めていった。本作は、「モンサント社」の1世紀にわたる歴史を語ると共に、現在のモンサントとその主張を、多くの証言と機密文書によって検証していく。「1ドルたりとも、儲けを失ってはならない」、その企業体質は、はたしてどんな犠牲を私たちに強いるのだろうか。そして、不利と分かりながら、巨大企業と対峙する学者や農家、多くの証言者たちの生きるための闘いは、わたしたちの闘いでもある。

監督：マリー＝モニク・ロバン Marie-Monique Robin

フランス人ジャーナリスト、ドキュメンタリー映像作家。1960年、フランスのポワトゥー＝シャラント地方の農家に生まれる。ストラスブールでジャーナリズムを学んだ後、フリーランス・リポーターとして南米に渡り、コロンビア・ゲリラなどを取材。1995年、臓器売買をテーマにした『Voleurs d'yeux (眼球の泥棒たち)』でアルベール・ロンドレ賞受賞。2003年、アルジェリア戦争でのフランス軍による拷問や虐殺を扱った『Escadrons de la mort, l'école française (死の部隊：フランスの教え)』でFIGRA (社会ニュースレポート&ドキュメンタリー国際映画祭) 優秀研究賞ほか受賞。2008年、本作『モンサントの不自然な食べもの』でレイチェル・カーソン賞 (ノルウェー)、ドイツ環境メディア賞ほか数々の賞に輝く。現在、3.11以降の福島の農家を取材し、アグロエコロジー、農業を中心とした継続的な社会をテーマにした、世界のオルタナティブ農家を追った作品を制作中。

講演者：白井和宏 (シライ カズヒロ)

1957年横浜生まれ。中央大学法学部卒業、イギリス・ブラッドフォード大学大学院ヨーロッパ政治研究修士課程修了。神奈川ネットワーク運動元事務局長。生活クラブ・スピリッツ株式会社代表取締役専務。訳書にアンドリュー・キンプレル『それでも遺伝子組み換え食品を食べますか?』(筑摩書房)、アンディ・リーズ『遺伝子組み換え食品の真実』(白水社)、デレク・ウォール『緑の政治ガイドブック ―公正で持続可能な社会をつくる』(筑摩書房) ほか。

GM作物の生産、流通経路について、世界各国に現地調査に赴く。

@shiraiGP Twitter <https://twitter.com/shiraiGP>

Facebook <https://www.facebook.com/shiraiGP>